

調査問題から見える「授業改善のポイント」〈小学校 国語〉

付箋の活用

＜複数の情報を様々な方法で整理しよう＞

- 思考の可視化 → 自覚・共有
- 思考の整理・分類 → 比較・関連付け

他教科との関連

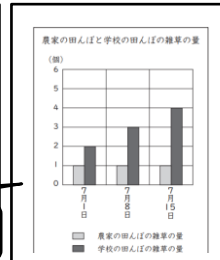
言葉への着目

思考ツールの活用

1二 図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる問題【書くこと】〈平均正答率 県 25.8%（全国比-0.9）〉
【授業改善のポイント】

調査結果の分析

- ・問題の【川村さんの文章】のグラフと【カード④】から分かることについて、どちらか一方しか書いていない児童が、全体の51.5%であった。
- ・学校の米作りの問題点について、グラフとカードから分かることを関係付けて捉えることに課題がある。



複数の情報を用いて、自分の考えをまとめる

○他領域や他教科等における、図表やグラフなどを活用する場面と関連させる

- 活動例
- ・説明的な文章を扱う「読むこと」の学習において、「図表やグラフなどが文章のどの部分とつながっているか」「筆者はなぜその図表やグラフなどを用いたのか」について話し合う。
 - ・社会科や理科、総合的な学習の時間などにおいても、国語で学習した視点を生かし、図表やグラフなどと文章の関係を整理する。

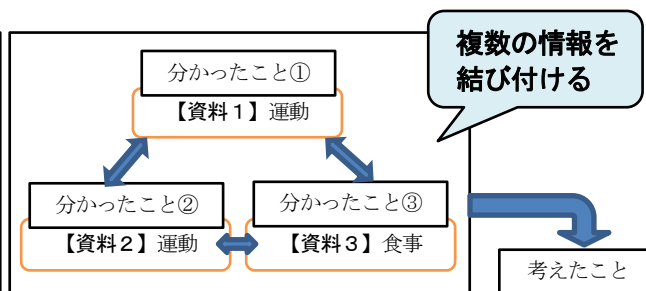
○自分の考えと図表やグラフなどとのつながりについて考える場面の充実を図る

- 活動例
- ・自分の考えを伝えるために集めた図表やグラフなどから、分かる事実とそこから考えられることを付箋に書き出し、構成メモの作成などに生かす。
 - ・図表やグラフなどを用いて自分の考えを書く際、「…を見ると、…が分かります。」や「このことから、…と考えました。」など、文末表現に気を付けながら事実や考えを整理する。

2四 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができるかどうかをみる問題【読むこと】〈平均正答率 県 57.8%（全国比+1.6）〉
【授業改善のポイント】

調査結果の分析

- ・文章を読んで分かったことについて、運動と食事の両方ではなく、どちらか一方のみを書いている児童が全体の27.2%であった。
- ・目的に応じて、複数の情報を結び付けて自分の考えを形成することに課題がある。



○目的を明確にし、必要な情報を見付けながら複数の文章を読む言語活動を充実させる

- 活動例
- ・必要な情報を見付けるための手掛かりとなる言葉を、イメージマップなどの思考ツールを活用して集めた上で、関連する本を探したり、目次、索引などを活用したりする。
 - ・知りたいことを調べるために読むという目的意識を明確にもち、複数の文章を読んで必要な情報を付箋に書いて集めていく。

○複数の文章を読んで分かったことを整理する場面の充実を図る

- 活動例
- ・集めた情報の、どの部分とどの部分が関連しているのかが分かるように線や矢印で結んだり、まとめるとどんな言い方になるかを表したりするなどして、知りたいことについて分かったことを比較したり・関係付けたりする。